

2013年(平成25年)8月2日 金曜日

産科システム

病院選定の要件協議

県と山梨大が初会合

妊婦健診は身近な病院で、出産は体制が整った病院で分担する「産科セミオープンシステム」の峡北地域への導入を目指す山梨大と県は1日、同大医学部で、導入病院を選定する委員会の初会合を開き、運営方法や必要な診察設備などの要件を確認した。葦

崎、北杜両市に近く提示し、候補の推薦を受けた上で10月をめどに健診を担う1病院を選定する。

同システムは、遠距離通院する妊婦の負担軽減につながる」と期待され、出産できる医療機関がない峡北地域で、葦崎市立、甲陽、塩川の3病院

が導入先の候補に挙がる。

委員会は産科医や助産師ら12人で構成。病院の選定方法や必須要件を協議した。運営は、同大学の産婦人科医と助産師を週1回派遣し、妊婦健診のほか婦人科診療も行つ。お産は大学付属病院か市立甲府病院で担当する。

導入病院に求める要件として①産婦人科診療ができる診察室、内診室の確保②必要な機器の整備(1200万円を上限に県が半額補助)③看護

師1人の配置―などを決めた。選定に当たり、対象市の出生数や最寄りのお産取り扱い医療機関からの距離、利便性などを考慮するとした。

〈桑原久美子〉